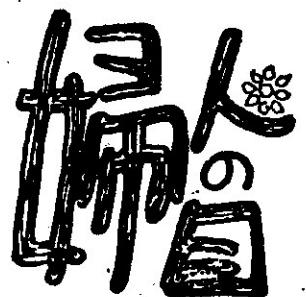


話せる者は一人もいなかつた。



ちょうど教科書問題で騒がれていた時期、8月下旬、韓国を訪れる機会に恵まれた。

実際に韓国の地を踏んでみて、「私たちのは」の隣りの国について、何も知らなかつたといふのが実感である。知らうとなかつたといふ方が正しいかもしない。

ソウルの郊外にある殉教者の記念の教会を訪れるよう紹介された。タクシーで行くことになり、乗って話しあじめた途端に、日本人だとわかれり、「降りて下さい」と言われた。

韓国を訪問して

藤屋紀子

もう一會の運転手は乗車拒否をした運転手と何か言い合ひ、そのあともう一會のタクシーやつかまえ、私たちを田舎地へつれて行って下さい。修道女は、「私の兄は日本語が上手に話せるし、理解できるけど絶対に使いません」と語った。

は、日本語の達者な司祭と大学教授に出会い、韓国の信仰の歴史を詳しく聞くことができた。そして、日本二十六聖人の中に三人の韓国人がいることを聞かされ、これも初耳めであった。

釜山は福岡と飛行機で、四十分しかからない距離にあります。しかしかかるない距離にあります。きっと国民学校のよい思い出があるからです」と語った。

突然の訪問で、何のおみやげも用意していなかつたので日本に帰つたら何か贈りたいとの申し出に彼は、「ひばりのマドロスさん」のレコードがほしいと語った。

今、私たちがそのレコードを探している。

語った。

私たち一行七人は韓国語の

訪れたぞの殉教者記念館で

て、彼は解放の時、国民学校

日本語のできる従兄がいました。

(主婦)